

釧路市鳥取コミュニティセンター（コア鳥取）

開催日時	2018年(平成30年)10月24日(水) 18:30～19:30
会場	学習室兼会議室 A・B
参加人数	10人
出席議員	秋田 慎一 副議長 酒巻 勝美 議員（議会運営委員会委員長） 伊東 尚悟 議員（総務文教常任委員会副委員長） 松永 征明 議員（経済建設常任委員会副委員長） 工藤 正志 議員（民生福祉常任委員会副委員長） 草島 守之 議員（石炭対策・関連エネルギー調査特別委員会副委員長） 松永 俊雄 議員（都心部市街地整備特別委員会委員） 河合 初恵 議員（議会広報特別委員会副委員長：司会）

質 問	胆振東部地震の際にコア3館に非常用電源を設置したとのことだが、どの程度効果があったのか。また、どれくらいの市民に周知できたのか、事後に調査や検証を行ったのか。
伊東議員	今回のような長時間にわたる停電を市役所自体も想定していなかったため、対策が行き届かなかった部分はあったと思う。コア3館にはたくさんの市民が来て、市の職員が夜まで対応していたが、そういったことが近隣の方にも伝わっていなかったという声を聞いている。情報はFMくしろで随時流していたということだが、回数が少ないなど課題があるということは市も認識しており、災害時の情報発信については、これからもしっかりと議論していきたい。
酒巻議員	今回は協定先と連携をとって発電機を設置し、携帯電話などを充電できる体制を確保していたのだが、停電の中で、そのことを市民に伝える手段が限られていた。今回のブラックアウトは初めてのケースであり、どこまでの効果があったのか、市民周知ができていたのかということについては、まだ確認できていない。市の担当部署からは、今回のことを教訓に市民周知や電源確保も含めて、効果的な方法について取り組んでいきたいという答弁があり、今後さまざま対応していくことになる。

意見	避難所の鍵は、一番先に到着した人が開けられるようになっているとのことだが、電話で暗証番号を聞いて鍵を取り出すというふうに聞いた。どれくらいの人があることをわかっているのか、わかっている人がいなかったら避難所に入れられない状況になるのか心配をしている。
伊東議員	例えば夜間に避難所の小学校を開設する場合は、近隣に居住している市職員が行って開設する仕組みになっていると聞いている。しかし、災害は予想を超えて起こり得るものであり、今回の災害でできなかったこともたくさんあることから、貴重な意見として議会における議論の中で反映させていきたい。

質問	市立病院新棟建設設計業務の契約解除の件について、市政報告会などで話を聞き、市側の意見は理解できたが、なぜ議会として業者側の言い分を聞かなかったのか。
工藤議員	6月定例会の民生福祉常任委員会において、その点についても検討の俎上に載り、参考人招致等も議論したが、議会としていち早く司法の場において解決を図るべきとの考えから、見送った経過がある。先週から裁判が始まり、その中で解決していくという状況になっているので、議会としてはそれを見守っていくことになる。
秋田副議長	市が契約を解除し、それにより不利益を被った部分について司法の場に持っていくということは当初から示されていたので、それであれば議会で議論するよりは、第三者の司法の場に委ねて結果を見たほうがよいだろうということで、議会として判断した。

意見	市中を歩いていると、散乱しているポイ捨てのごみが非常に気になる。これからたくさんの観光客に来てもらいたいという状況で見苦しいのではないか。これは我々市民がみんなでやらなければならないことだと思うので、これを啓発する方法などについて機会があれば議論してほしい。
河合議員	市民有志や町内会の方々にごみ拾いの協力をいただいているところだが、どのような啓発ができるのか、議会の中でもしっかりと考えていきたい。

意見	胆振東部地震の際に、FMくしろの受信状態が悪く、他局のほうで情報を聞いていた。断水のデマが流れたり、電気の復旧情報もラジオに頼っていたので、回線の安定化を図ってほしい。
伊東議員	情報をいかに正しく多くの人に伝達するかということについて、今回は問題がいろいろあったという声をたくさん聞いている。FMくしろに関しては、9月定例会の質疑・一般質問の中でも、災害情報が流れる回数が少なかったもので、いつつけても災害情報を聞くことができるような形にすべきではないかという意見もあったし、これからFMくしろと市の担当部署で話し合いをするという話もあった。意見を幅広くもらって、周知のあり方を考えるべきであると思っている。

意見	今は太陽光発電が普及しているが、手回し発電機でも携帯電話の充電くらいであれば十分使えるので、各自が持つておくのも一つの方法ではないか。また、冬に吹雪で車が立ち往生した際に、一酸化炭素中毒で亡くなる人がいるように、わかっているにもかかわらず実際の場面になるとパニックになってしまうことがあるので、防災に関しては普段からの準備を心掛けるよう指導していくべきではないか。
伊東議員	今回の件に関しても、日頃の備えがどれだけ大事かということがわかった方も多いと思う。市としても迅速に対応したいけれども、すぐに助けることができるかわからないので、何とか1日か2日の間は自分で生き延びられるように備えてほしいということを基本的な考え方にしている。そういったことを市民に周知していくことが大事だと思っているので、今後も意見をもらいながら議論していきたい。

意見	市が行っている事業の広報が弱い。防災庁舎前で開催している朝市は、庁舎内にポスターもなく、実際に行ってみるまで何をやっているのか全くわからなかった。パブリックコメントについても、担当課の所にポスターもないし、募集用紙も置いていないし、専門的な内容だと書きづらいということもあるので、何とかしてほしい。
酒巻議員	それぞれの担当課に対し、もっと効果的に市民に伝えて、かつ参加するための手続きをわかりやすくするように、私たちのほうからも今日もらった意見を伝える中で議論していきたい。